

交付償還運用報告書

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「UBSグローバル好利回りCBファンド2012-12（円ヘッジ・年1回決算）（限定追加型）」は、2015年12月21日をもちまして信託約款の規定に基づき償還させていただきました。

当ファンドは世界各国の転換社債等を実質的な主要投資対象とし、信託期間を勘案しつつ相対的に利回りが高いと判断される銘柄に投資し、信託財産の成長を目指して運用を行います。当期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドをご愛顧いただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

第3期末（償還日2015年12月21日）

基準価額	10,815.94円
純資産総額	2,905百万円
騰落率*	0.5%
分配金合計	0円

※騰落率は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

UBS

グローバル好利回りCBファンド 2012-12（円ヘッジ・年1回決算） （限定追加型）

追加型投信／内外／その他資産（転換社債）

第3期（償還日2015年12月21日）

作成対象期間（2014年12月20日～2015年12月21日）

UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア
イーストタワー

＜お問い合わせ先＞ 投信営業部 03-5293-3700
（受付時間：営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く）

<http://www.ubs.com/japanfunds>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供することが定められております。運用報告書（全体版）は以下の方法でご覧いただけます。

＜閲覧方法＞

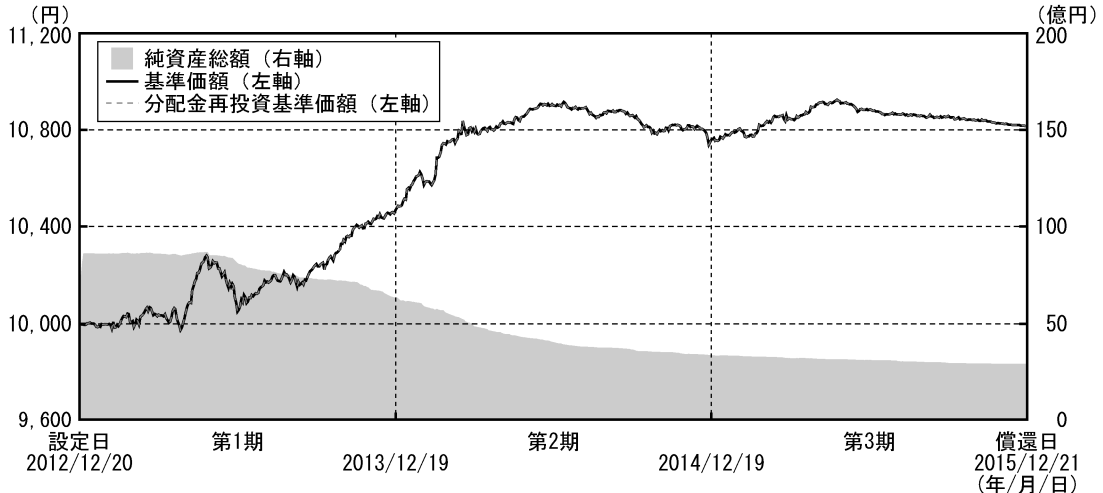
上記の委託会社のホームページアドレス⇒「ファンド検索」にファンド名（日経新聞掲載名でも可）を入力⇒表示されたリストの「ファンド名」欄にある当該ファンドの名称をクリック⇒「運用報告書（全体版）」のタブをクリック

なお、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。書面をご希望される場合には、販売会社までお問い合わせください。

運用経過

基準価額等の推移について

<基準価額等の推移 (2012年12月20日～2015年12月21日) >



第3期首 : 10,760円
 第3期末 (償還日) : 10,815.94円 (既払分配金 0円)
 騰落率 : 0.5% (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまが利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

- 当期 (第3期) の基準価額は期首比で55.94円値上がりしました。その結果、基準価額の騰落率は+0.5%となりました。
 なお、償還日の基準価額は、設定時から815.94円値上がりし、設定来の騰落率は+8.2%となりました。

基準価額の主な変動要因

- 当期の基準価額は、実質的に組入れられたCB等の価格変動 (価格の上昇) や利子収入などのプラス (上昇) 要因が、マイナス (下落) 要因を上回ったため、値上がりしました。主な上昇要因は、株価連動性の高いCBが株式市場の上昇局面において値上がりしたためです。

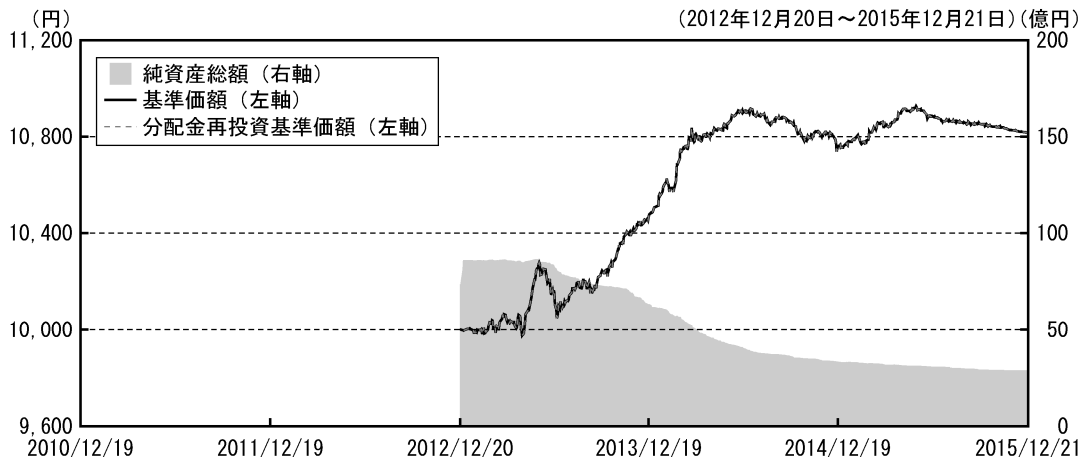
1万口当たりの費用明細

項目	当期 2014/12/20~2015/12/21		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	130円	1.195%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は10,846円です。
（投信会社）	（ 88）	（0.814）	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	（ 35）	（0.326）	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の 情報提供等の対価
（受託会社）	（ 6）	（0.054）	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
その他費用	4	0.038	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	（ 1）	（0.012）	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
（監査費用）	（ 3）	（0.025）	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（その他）	（ 0）	（0.002）	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	134	1.233	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 「金額」欄は項目ごとに円未満四捨五入してあります。「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまが利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、設定日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

	2010年12月19日	2011年12月19日	2012年12月20日 設定日	2013年12月19日 決算日	2014年12月19日 決算日	2015年12月21日 償還日
基準価額 (円)	—	—	10,000	10,467	10,760	10,815.94
期間分配金合計(税込み) (円)	—	—	—	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	—	—	4.7	2.8	0.5
純資産総額 (百万円)	—	—	7,351	6,331	3,350	2,905

(注) 「分配金再投資基準価額騰落率」および「期間分配金合計(税込み)」は、表中の直前の決算日または設定日からの騰落率および分配金合計(税込み)です。

※当ファンドは原則として信託期間(約3年)内に満期を迎える転換社債に投資を行うため、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数(参考指数)はありません。

投資環境について

■ グローバル転換社債（以下「CB」）市場

当期のCB市場は、期初より欧州中央銀行（ECB）による量的金融緩和政策導入の期待が高まったことや、ウクライナ情勢やギリシャ財政問題への懸念が後退したことなどから、株式市場が反発する中、CB市場も概ね上昇基調となりました。その後も、米国利上げ観測の後退や資源価格の上昇などを背景に、投資家のリスク志向が回復し、堅調に推移する株式市場とともに、CB市場も期の半ばにかけて上昇を維持しました。その後は、ギリシャの債務交渉の先行き不透明感や、米国利上げ観測などが重石となり、2015年7月以降は中国株式市場の急落や商品市況の下落に加え、中国人民元の切り下げに伴う中国経済の減速懸念の高まりなどを背景に、世界的に株安が進行したことから、CB市場も軟調な推移となりました。10月に入ると、米雇用統計が予想を下回り、利上げ観測が後退したことなどをを受けてCB市場は上昇し、ECBの追加金融緩和への期待や中国での利下げなどが好感されて、期末にかけては上昇基調を維持しました。

ポートフォリオについて

- 当ファンドは、UBSグローバル好利回りCBマザーファンド2012-12（円ヘッジ）への投資を通じて、主として信託期間（約3年）内に満期を迎え、相対的に利回りが高いと判断される銘柄のCB等に投資を行いました。なお、期中に満期等により現金化されたCB等の一部については、信託期間内に満期を迎える米国債にも投資を行いました。また、組入外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るために対円での為替ヘッジを行いました。当期は償還期につき、組入有価証券を売却し、償還に備えて資産の現金化を図りました。

ベンチマークとの差異について

- 当ファンドは原則として信託期間（約3年）内に満期を迎える転換社債に投資を行うため、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数（参考指数）はありません。

分配金について

- 第3期（償還期）までに信託財産中に留保されてきた利益につきましては、償還価額に含みお支払いいたしております。

お知らせ

■ 約款変更のお知らせ

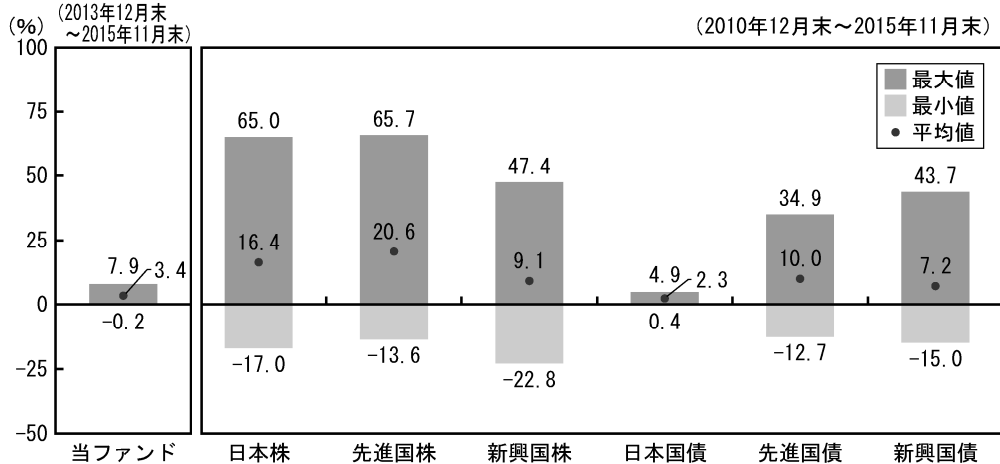
委託者の商号変更に伴い、信託約款に所要の変更を行いました。（約款変更実施日：平成27年12月1日）

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／その他資産（転換社債）	
信託期間	信託設定日（2012年12月20日）から2015年12月21日まで	
運用方針	<p>マザーファンドへの投資を通じて、世界各国の転換社債等[※]を主要投資対象とし、信託期間を勘案しつつ相対的に利回りが高いと判断される銘柄に投資し、信託財産の成長を目指して運用を行います。</p> <p>※「転換社債等」とは、一定の条件で株式に転換できる権利のついた社債や、これと同様の性質を有する証券、証書などの有価証券をいいます。（有価証券の種類にかかわらず、委託者（マザーファンドの運用指図権限の委託先を含む）が同様の投資効果を得られると判断するものを含みます。）</p>	
主要投資対象	ベビーファンド ＜UBSグローバル好利回り CBファンド2012-12（円 ヘッジ・年1回決算）（限 定追加型）＞	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド ＜UBSグローバル好利回り CBマザーファンド2012-12 （円ヘッジ）＞	世界各国の転換社債等を主要投資対象とし、信託期間を勘案しつつ相対的に利回りが高いと判断される銘柄に投資を行います。
運用方法	ベビーファンド ＜UBSグローバル好利回り CBファンド2012-12（円 ヘッジ・年1回決算）（限 定追加型）＞	マザーファンドの組入れについては、高位を維持することを基本とします。 実質外貨建資産については、マザーファンドにおいて、原則として対円で為替ヘッジすることにより為替変動リスクの低減を図ります。
	マザーファンド ＜UBSグローバル好利回り CBマザーファンド2012-12 （円ヘッジ）＞	銘柄選択にあたっては、利回りに加え、発行体リスク、流動性などを踏まえ、組入銘柄および組入比率を決定します。なお、信用格付けが投資適格未満（BBB-未満）の銘柄への投資も行います。 主として信託期間内に償還を迎える銘柄に投資を行いますが、当該銘柄の償還後に転換社債等への再投資は行わずに償還金を信託期間終了まで短期有価証券および短期金融商品等で運用する場合があります。 また満期が信託期間を超える銘柄にも、一部投資を行います。 外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジすることにより為替変動リスクの低減を図ります。 UBS AG、UBSアセット・マネジメント（チューリッヒ）に運用の指図に関する権限を委託します。
配分方針	<p>毎決算時（原則毎年12月19日、休業日の場合には翌営業日）に、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）および売買益（評価益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額をいいます。）等の中から市況動向、残存信託期間等を勘案して配分金額を決定します。ただし、分配を行わないことがあります。収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。</p>	

※資金動向、信託財産の規模および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(参考情報) 当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



■上記は、当ファンドについては2013年12月から2015年11月までの各月末、代表的な資産クラスについては、2010年12月から2015年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を表示したものです。

(注1) 各資産クラスは当ファンドの投資対象を表しているものではありません。

(注2) 当ファンドについては、分配金再投資基準価額の年間騰落率が記載されているため、収益分配が行われた場合には実際の基準価額の年間騰落率とは異なります。

(注3) 騰落率は直近の月末から最大60ヵ月さかのぼった算出結果であり、当ファンドの決算日に対応したものではありません。

(注4) グラフは、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したのですが、当ファンドと代表的な資産クラスで対象となる期間が異なることにご注意ください。

■各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)

日本国債：シティ日本国債インデックス

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円換算ベース)

(注1) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

(注2) 詳細は最終ページの「代表的な資産クラスに関する指数について」をご覧ください。

ファンドデータ

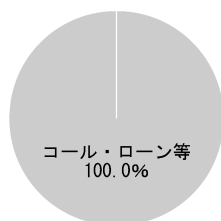
当ファンドの組入資産の内容

(2015年12月21日現在)

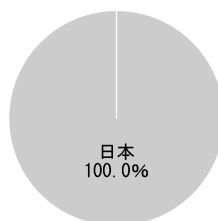
■組入上位ファンド(銘柄数:一)

償還時における有価証券等の組入れはありません。

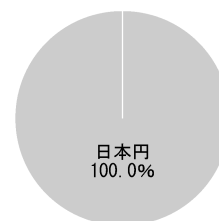
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注) 「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国別配分」の比率は当ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

純資産等

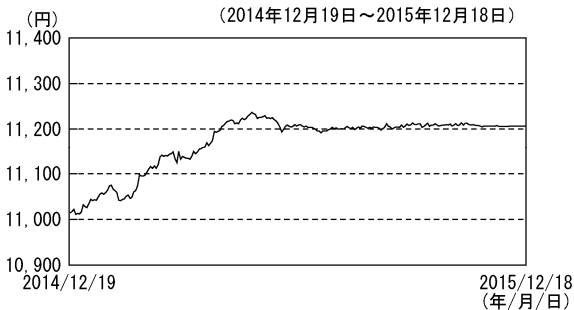
項目	第3期末：償還日 2015年12月21日
純資産総額	2,905,625,946円
受益権総口数	2,686,430,398口
1万口当たり基準価額	10,815円94銭

(注) 当期(第3期)中における追加設定元本額は0円、同解約元本額は427,647,798円です。

組入上位ファンドの概要

<UBSグローバル好利回りCBマザーファンド2012-12 (円ヘッジ)>
(2015年12月18日現在)

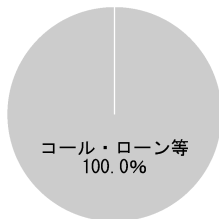
■基準価額の推移



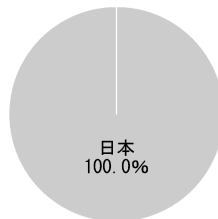
■組入上位銘柄 (銘柄数合計：一)

償還時における有価証券等の組入れはありません。

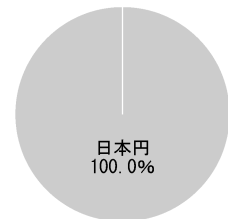
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 「基準価額の推移」はマザーファンドの直近の計算期間、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国別配分」、「通貨別配分」はマザーファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国別配分」の比率はマザーファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 「国/地域」および「国別配分」は、発行国または投資国を表示しております。

(注4) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書(全体版)」をご覧ください。

■1万口当たりの費用明細

項目	当期 2014/12/20～2015/12/18	
	金額	比率
その他費用 (保管費用)	2円 (1)	0.013% (0.013)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	2	0.013

※期中の平均基準価額は11,167円です。

(注1) 「1万口当たりの費用明細」は、マザーファンドの直近の計算期間のもので、費用項目の概要については、2ページ「1万口当たりの費用明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注3) 「金額」欄は項目ごとに円未満四捨五入してあります。「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※当マザーファンドの運用の経過につきましては、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。

代表的な資産クラスに関する指数について

<東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)>

- 東証株価指数 (TOPIX) は、株式会社東京証券取引所 ((株) 東京証券取引所) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数 (TOPIX) の商標又は標章に関するすべての権利は (株) 東京証券取引所が有しています。なお、本商品は (株) 東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、(株) 東京証券取引所は、本件商品の発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

<MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)>

<MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)>

- MSCIインデックスに関する著作権、およびその他知的財産権はMSCI Inc. に帰属しております。MSCI Inc. が指数構成銘柄への投資を推奨するものではなく、MSCI Inc. は当指数の利用に伴う如何なる責任も負いません。MSCI Inc. は情報の確実性および完結性を保証するものではなく、MSCI Inc. の許諾なしにデータを複製・頒布・使用等することは禁じられております。

<シティ日本国債インデックス>

<シティ世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース)>

- シティ債券インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。騰落率の数字は、シティ日本国債インデックス・データおよびシティ世界国債インデックス・データに基づき当社が計算したものです。

<JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円換算ベース)>

- JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドは、J.P. Morgan Securities LLCが算出し公表している指数です。当指数の著作権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。